令和６年度１１月園だより

段原みみょう保育園

「子ども同士の関わりの中で育つ心」

「見てみて、夕焼け。」Ｓ君の指さす先に、すみれ組の窓から茜色に染まる空が見えました。１０月に入るとあっという間に日が短くなり、その小さな日々の変化をＳくんから教えてもらった瞬間でした。夕焼け空を見つめながら、「なんで赤くなるの？」「夕焼けだったら、明日は晴れるんだって。知ってる？」と話している子どもたち。子どもたちの興味、関心は無限大ですね。この気持ちを大切に、冬へと移り変わる季節も共に感じながら、楽しく過ごして参りたいと思います。

園生活の中で子どもたちは、毎日たくさんのお友だちと、好きなあそびを通して関わりを深めています。乳児組さんでは、お友だちの存在に気づき、最近では名前を呼びあったり、お友だちと同じことをしたいという気持ちが溢れ、側で一緒に遊ぶ姿が増えてきました。また、幼児組さんでは、友だちと様ざまな経験を共有することで、自分とは違う感じ方や考え方があることを知り、お互いの思いを伝えあいながら、友だちとやり遂げる楽しさを味わっています。こうした子ども同士の関わりの中で、嬉しいや楽しいという感情はもちろんですが、悔しいや悲しいといった感情も日々抱いています。例えば、使いたいものが一緒になり取り合いになったり、自分の思いを伝えているのに理解してもらえなかったり…。そんな時、子どもたちは、自分の思いを必死で表現しようと、手が出てしまったり、相手が傷つくような言葉を発してしまうことがあります。もしかするとご家庭においても、子どもたちから「今日、お友だちとね…」とうまくいかなかった出来事を話してくることがあるのではないでしょうか。これは、決して相手のことが嫌だとか、意地悪するという悪意のもので起こっているわけではありません。「これ、わたしが使いたい」「一緒にやりたい」といった自分の思いを表現する気持ちが、こうした行動として表れているのです。大人はつい起こったことを目にすると「叩いたらダメよ。」と声をかけてしまいがちですが、子どもたちは、手を出してしまった後「やってしまった…。」という表情を見せます。その揺れ動く心情を見逃さず、しっかり受け止めて「どうしたらよかったかな？」と一緒に考えていくことで、自分とは違う相手の思いを知ったり、相手に自分の思いを伝えるにはどうしたらいいのかを学びます。そして、その原点は、乳児期にあります。身近な大人に、赤ちゃんの時からしっかり愛され可愛がられ、様々な感情をまるごと受け止めてもらっている積み重ねがあるからこそ、人が好きになり、様ざまな葛藤の中でも人と関わる楽しさや喜びを感じていけるのです。

将来子どもたちは、たくさんの人と出会い関わっていくことでしょう。だからこそ、今の子ども同士の関わり合いをプラスの経験だけでなくマイナスの経験も含めて大切にしていきたいと思います。そして１２７名の段原みみょう保育園の子どもたち一人ひとりが自己を発揮し、互いに様々な感情を抱きあいながら、思いやりの心をもって育ち合っていきたいと思っています。

１１月２日（土）は、段原みみょうフェスティバルです。「とことんやってみよう。もっともっとあそぼう」をテーマに子どもたちが毎日、楽しんできたあそびを用意しています。当日は、ぜひ、親子で夢中になって遊んで、楽しい時間を過ごしていただけたらと思います。

園　長